



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第九九号）

大寒 だいかん

一月二十日



学校給食

いかにも凍えそうな言葉、大寒。一年で最も寒い時期ですが、一月二五日から三十日は学校給食週間にあたります。この期間は特別メニューが出されるなどして、子供たちにとってはいつもと違う食に出会う時です。

学校給食は明治二二（1889）年に山形県の小学校でお弁当をもってこれない子供たちに、おにぎりとおかずの昼食を出したのが始まりです。以来、全国各地に広まりましたが、戦争とともに中断。戦後は外国からの小麦粉や脱脂粉乳、缶詰などで再開された経緯があります。学校給食週間は再開された十二月二四日を記念して定められましたが、学校が冬休みに入ってしまう期間のため、一カ月遅れの一月の一週間になりました。

三重県では「わが校の自慢料理」といったメニューが多かったようです。今では地場産品を生かした学校給食へと変わってきました。三重県の銘柄米の「みえのえみ」や県内産小麦粉を二十％使ったパンなど。去年のメニューを見ると、四日市の「とんてき」や「つぎょうぎ」といった当地グルメも登場。ほかにもひじきうどん、松阪しめじの和え物、青さ汁、なばなサラダと、各地の特産品が目白押しです。

学校給食が始まった頃に比べて、今の私たちは食に困ることはほとんどありません。それゆえ、食への感謝の気持ちを忘れつつあるように思います。

たなつもの百の木草も天照らす

日の大神のめぐみ得てこそ

本居宣長

宣長は食物もあらゆる木や草も日神である天照大神の恵みがあつてこそと食への感謝を歌に詠んでいます。この機会に子供だけでなく、大人も食への感謝を再認識したいものです。

文

千種清美

